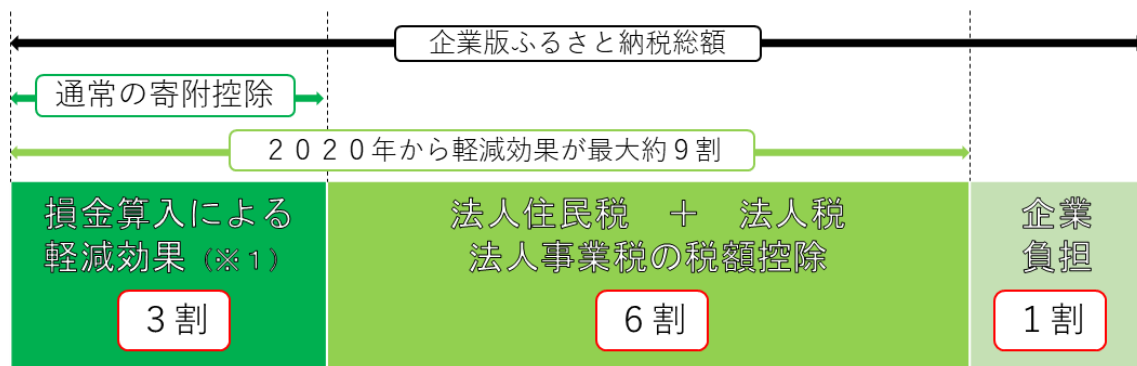


# 企業版ふるさと納税活用事業の進捗状況について（令和4年度）

企業版ふるさと納税（地方応援税制）は、企業が寄付を通じて地方公共団体が地方創生の取り組みを応援した場合に法人関係税から税額控除をする仕組みです。2020年の制度見直しにより、最大で寄付額の約9割が軽減され、実質的な企業の負担が約1割まで圧縮されます。

本市では、令和4年度においては、11の企業から合計1,410万円の寄附をいただき、令和5年度から実施の1事業に活用予定です。寄附を活用した事業についての進捗状況については以下のとおりです。



※1 企業が地方公共団体に寄附した場合は、その全額が損金算入されるため寄附額の約3割(法人実効税率)相当額の税の軽減があります。税額控除の手続(申告)や算出に関しては税理士や所管する税務署へご相談ください。

## 企業版ふるさと納税活用事業 効果検証結果一覧（令和4年度）

地域再生計画における事業への位置づけ	重要業績評価指標KPI				事業名	事業費(千円)	寄附受入金額(千円)	寄附企業数(社)	事業概要	効果	今後の方針	担当課
	名称	基準値(2021年度)	実績値(2022年度)	目標値(2024年度)								
若者に魅力のあるしごとづくり推進事業	従業者1人当たり付加価値額	2.9百万円	3.0百万円	3.5百万円	総合加工施設建設事業	1,000,000	14,100	11	農業所得の伸び悩みや6次産業化の浸透、農産物出荷システムの改善といった当地域の課題解決につなげる総合加工施設を整備する。ピワ・牛乳・菓子・ドライフルーツ・バターの5つの製造機能を有し、今まで廃棄されていた規格外品のフル活用により地元素材にこだわった自社製造商品の強化を行う施設となる。 令和4年度は、実施設計業務委託において詳細設計図の作成、建設工事費の確定、建築確認申請等の各種申請業務等を実施した。 令和5年度から令和6年度にかけて建設工事を実施し、令和7年4月の開業を目指す。	事業実施中	本事業は令和6年度までの継続事業であることから引き続き寄附金の活用を行っていく。「農産物の加工・商品開発拠点」の施設整備として、地方創生の取組に効果が期待できる。より地方創生に効果がある事業となるよう関係課等と引き続き協議を進めていく。	地域資源再生課・観光プロモーション課
	創業比率	3.2%	16.9%	5.0%								



# 地域の六次化事業を日本一の道の駅がけん引！ 地域産品を高付加価値化に導く加工場を整備 千葉県南房総市 企業版ふるさと納税で挑戦中！

房州びわと日本酪農発祥の地の生乳を活用！

## 六次化事業・地域活性化



みなみぼうそし  
千葉県南房総市

8 働きがいも 経済成長も	9 産業と技術革新の 基盤をつくらう	11 住み続けられる まちづくりを	12 つくる責任 つかう責任

現在、売られている特産アイテムを用いた新商品開発を進めると同時に、まだ商品化されていない(あるいは廃棄されている)アイテムの掘り起こしも行うことで、新たな地域ブランドの創出、そしてSDGs(エシカル商品開発)にもつなげていきます。

目標金額	企業版 ふるさと納税	
200,000,000円		

受付期間  
2025年3月31日(月)まで

### プロジェクトの概要

市内には現在、個性あふれる道の駅が8つあります。南房総市は、日本で一番道の駅の数が多い自治体です。なかでも「道の駅とみうら枇杷倶楽部」は、2000年「全国道の駅グランプリ」で最優秀賞を受賞し、観光客にも注目されている道の駅です。

本プロジェクトでは、市内に加工場を整備し、地域の特産品である「房州びわ」や日本酪農発祥の地の歴史を持つ「生乳」を活用して、加工品やソフトクリームづくりに必要な原料製造を行います。また、地元で収穫した野菜や果物をドライフルーツやピューレに加工するなど、新たな加工技術を組み合わせ商品開発を進め、地域産品の消費拡大を図ります。

これらの取り組みにより、道の駅が「6次産業化」のけん引役となり、農産物等の価値をさらに高め、農業者の所得向上とこの地域に魅力を感じる人材の育成・定着、道の駅の交流機能の強化を図り、地域活性化の実現に取り組んでまいります。

### 目 標

本プロジェクトでは、道の駅とみうら枇杷倶楽部の機能強化の一環で新たに加工場を整備し、地域産品を原料に“南房総らしさ”を前面に打ち出した新商品を製造します。2025年の完成を目指し、5年間で10商品の新商品開発を目指します。

まず、特産品である「房州びわ」をデザートや土産品に加工します。現在稼働している加工場は老朽化しているため、処理能力・機能強化した新しい加工場で製造することで、生産性の向上につなげます。

2つ目に、地元の生乳を使った商品のラインナップを強化します。道の駅の人気ナンバーワンの「びわソフトクリーム」のほか、新しく牛乳とびわが2層になったプリン製造など、新商品の新企画を準備しています。

それらの商品をきっかけに当市が酪農発祥の地であることをアピールし、当市特産品のブランド化につなげます。

### 市長からのお願い



特産品である房州びわや生乳を加工し商品化したいのですが、そのノウハウが充分ではありません。また、商品開発だけでなく、販路開拓やプロモーションなど製造から収益化に結びつけるまでのマネージメント能力も必要としています。

そこで、企業版ふるさと納税を通じて、こうした課題についてのノウハウをお持ちの企業の皆様の手もお借りしたいと考えています。

本プロジェクトは2022年度、加工場の設計計画を完了させ、2023年度から本格的な加工場建設に向け、進めてまいります。

本プロジェクトをさらに充実させていくためにも、企業の皆様のご協力とご寄附が欠かせません。ご支援のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

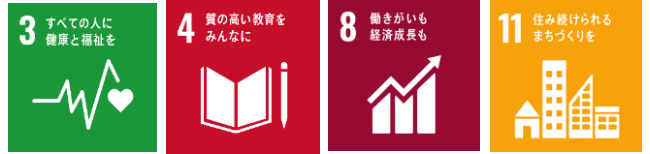


七色の自然に暮らす

# 介護人材の育成に向けた学校の整備に支援を行い、 高齢化社会に立ち向かう地域づくりを進めます！

## 千葉県南房総市 企業版ふるさと納税で挑戦中！

(仮称) 安房医療福祉専門学校 南房総校



今後不足するであろう介護人材の確保のために教育の場を整備するとともに、関わる人たちが安心して暮らせる地域づくりを行っているよう努めてまいります。

目標金額

197,900,000円

受付期間

2024年12月27日(金)まで

## プロジェクトの概要

市の高齢化率(65歳以上の人口の割合)は令和2年に45.9%であり、令和7年には48.1%、令和22年には54.1%と、人口の半分以上まで増える見込みとなっております。また、それに伴い、要介護認定率も、令和2年が19.7%に対し、令和7年には21.0%、令和22年には25.5%と、4人に1人が要介護者となってしまうことが予想されます。

しかしながら、高齢化社会を支える上で必要な介護人材については、人口の減少から不足の一途を辿り、このままでは施設はあっても、そこに従事する人材の不足により、十分なサービスを受けられないことが懸念されます。

本プロジェクトでは、市内の空き公共施設を活用した、「(仮称)安房医療福祉専門学校南房総校」の整備に対し支援を行います。

この取り組みは、市内における介護人材の確保を図るとともに、市内の人口減少を食い止める一助ともなり、地域全体の活性化につながるものと考えております。

## 目 標

本プロジェクトは、社会福祉法人太陽会が令和6年に開設を予定している、(仮称)安房医療福祉専門学校南房総校の整備に対し支援を行います。この学校の校舎は、市内にあった旧中学校を活用し、市内外の若者や外国人の入学を受けられるよう教育環境の充実を図ります。施設内には、地域の障害者の福祉的就労施設である食堂を併設し、当該学生のほか、近隣の高校生や地域の方も利用できる施設としていきます。

この取り組みにより、市における介護人材の確保につなげるとともに、人口減少を食い止めるきっかけとして、地域全体の活性化につなげていきたいと考えております。

## 市長からのお願い



本市は東京から車で70分の近さでありながら、人口減少に歯止めがかからず、高齢化率は県内でもトップクラスです。こういった中、将来にわたっての大きな課題である高齢化社会に対応した地域づくりを考えなければ、安心した老後を迎えることはできないと考えております。

そこで、企業版ふるさと納税を通じて、こうした課題についての解決を図りたく、皆様の力もお借りたいと考えています。本プロジェクトは学校整備への支援を行い、令和6年の開設に向けて進めていきたいと考えております。将来的には、学校を卒業した生徒が地域の介護人材として活躍できる仕組みを検討したいと思います。

ご支援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。